

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー（社会学科）、地域社会学		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

先生方のサポートをすることに、最初は気楽な気持ちで始めました。しかし、実際にチューター業務を開始してみると大変で、仕事がこんなにもあるのかと驚きの気持ちでいっぱいでした。時間が経過するにつれてその仕事量にも慣れてきました。仕事内容としては授業資料作成がほとんどでしたが、コピーと製版・印刷の違いを知ることができたので、これは社会に出ても役立つなと思います。

実際の授業では、先生の質問に対してはよく答えました。しかしながら、学生さんのほうから質問を受けることがあり、そのときに焦ってしまって答えられなかったり、知らない内容を尋ねられたりして、正直困ってしまったことが何度かありました。もう少し、先生とのコミュニケーションを図っておいて、学生さんの疑問に答えられるようにしておけばよかったなと反省しています。また、もう少し自発的にサポートしようと思うべきだったかとも思います。最後のほうの授業では、学生さんとも触れ合う機会があって、大変楽しかったです。やはり、3 回生にもなって自ら動かないというのは、これからのことを考えるとよいものではないと思います。私には積極性が足りないということに、改めて気付くことができました。

今回、春学期の間だけでしたが、チューター業務をさせていただいて、社会で役立つスキルを身につけられたのではないかと思います。それは、先生方に対する礼儀であったり、前述した事務的な作業であったり、様々です。先生方と他の学生さんよりも近い距離で接することで、一社会人であらう先生方から社会的スキルを身につけられたのは、これからの就職活動で決して無駄にはならないでしょう。

普段とは違う環境に入ること、社会人として出た際に使うことのできるスキルと、自らの欠点を発見することができました。では長所は発見できなかったのかと言うと、そういうわけでもなく、分からない問題に対して積極的に向かっていく姿が自分にあることに気付きました。ただ、人見知りの性格なので、他の人に対して積極的に向かっていければと思います。

今回、短い間でしたが、非常に貴重な体験をさせていただいたと思っています。

<今後のチューターまたは先生への提案>

最初は分からないことばかりですが、質問をすれば先生方は快く答えてくれます。できないことがあったり、分からないことがあったりした場合は、勝手に自分でするのではなく、きちんと質問をしなければなりません。もしかしたら、勝手な行動が大きな失敗につながる恐れがあるからです。しかし、失敗を恐れていても何も始まりません。きちんとすべきところはきちんと、緩めていいところは緩めて、自分のよさを出して行って欲しいと思います。